

1909 年の方針

1909 年当時シカゴクラブは親睦派と奉仕派とが対立して収拾のつかない状況でした。そんな中でポール・ハリスは二期目の会長を任期半ばで辞任し、奉仕派のリーダーであったアーサー・フレデリック・シェルドンも役員を解任されて、親睦派のリーダーであったハリー・ラグルスが会長としてクラブの運営に当たることになりました。その間に至る事情をやや詳しく説明すると次の通りです。

殺伐とした都会の中で安らぎと友情を求めするためにロータリーができました。やがて、それに、会員の事業上の利便を図り合う相互扶助の考え方が加わります。その後ドナルド・カーターの提唱によって対社会的な奉仕活動の必要性が説かれ、1907 年、ポールの会長就任と共にクラブの活動方針は大きく転換され、会員増強と拡大と地域社会への奉仕活動へと移っていきます。

当時のシカゴ・クラブの会員数は 150 名前後でしたが、新しい会員の大部分は親睦と物質的相互扶助を目的に入会したものであり、そこに地域社会への奉仕とか拡大といった新しい概念が導入されたものですから、大きな混乱が起きました。ポール・ハリスの方針に積極的に賛同したのは、ドナルド・カーターやアーサー・フレデリック・シェルドンなどの小数派であり、クラブ内で圧倒的多数を占めていた親睦・互惠派との間でくりひろげられた論争の激しさは、想像を絶するものだったらしく、遂にシカゴ・クラブを拠点にしたロータリー活動を断念したポール・ハリスは、二期目の任期途中で会長を辞任し、次いでシェルドンも、新会長ハリー・ラグルスによって、拡大委員長を解任されるという異状事態にまで発展します。

この「1909 年の方針」という文書は、新しく会長に就任したハリー・ラグルスが自らの正当性を主張した声明文です。

この騒動の結果、1910 年に結成されたのが、当時 16 クラブまで拡大されていたロータリークラブの連合体である全米ロータリークラブ連合会であり、これを境にして、奉仕・拡大派の活動の場はシカゴ・クラブを離れて全米ロータリークラブ連合会(現在の RI)へ移っていきます。拡大も奉仕理念の追求も大切なことではありますが、その議論が白熱化した結果、シカゴ・クラブの親睦に破綻をきたしたこともまた事実です。ロータリークラブが社交クラブとして生まれた以上、どんな理由があったとしても親睦を阻害する因子は排除しなければなりません。この苦い経験を経て、親睦の場としてのロータリークラブと、奉仕理念を追求し積極的に拡大を図る場としての連合会を分離することによって、無用の混乱を起こさないという配慮から連合会を設立する構想が生まれたのです。

ちなみに、連合会の初代会長にはポール・ハリスが就任し、事務総長(幹事)はチェスレー・ペリーが務めました。チェスは、1942 年までの 32 年間その職に留まり、退任後の 1947 年、シカゴ・クラブ会長に就任することで、古巣であるシカゴ・クラブに華を持たせました。なおこの事件を機に袂を分かったポー

ル・ハリスとハリー・ラグルスの仲は生涯関係回復しなかったといわれています。

1909 年度の方針

ハリー・ラグルス

今年度の私の方針は以下の通りです。

1. 私は、あなた方に素晴らしい企業経営能力を与えるつもりです。私は、会員数を増やすために、最善を尽くすつもりです。私達が素晴らしい人を各々の分野から発見すると同時に、会員を増やします。会員選考委員会が、申込者から申し入れのあった人について、多くのことを知ることを期待するのは、ほとんど不可能に近いので、すべての会員は、会員に接近してくる人たちに対して、細心の注意を払うべきであると考えています。我々はクラブの水準を引き上げなければなりません。
2. 会員間の取引交換量は、非常な速さで伸びています。もしあなたが、返信はがきを点検して、会員間で処理された取引の量を見たら、驚くに違いありません。提供したり提供されたりした量は、2 週間に 15 種類にも及ぶ注文を超えているのです。
3. 実行可能な限り、会合のたび毎に会合の通知を書き、会合が成功するために十分な責任をとり、義務を果たしてくれる、異なった委員長を指名する予定です。
4. 例会を興味深いものにしてくれる人を望んでいます。時には有名な公的な卓話者による話によって、例会を開くたびに才能のある人を育てるように努めたいものです。クラブの大多数が賛成ならば、我々の例会を公式なものにしたいと思います。
5. 拡大作業について。すべての大都会にロータリークラブを持ち、シカゴに本部をおいた全国組織を持っていることが理想的であると考える一方で、これに関しては、注意を払いながらいくべきであると信じています。この問題は理事会において、すべての角度から協議されるべきです。私はこの作業について責任を取りたいとは思っておらず、委員会の責任の元で、クラブの考え方に従った計画を提出するつもりです。
6. まったく利己的な動機から、最善の成果を得ることができるとは信じていないので、クラブが一定量の市民に対する活動を取り上げるべきだと確信しています。
7. ロータリーにとって、成功した年になることを希望しています。我々は肩を寄せ合って活動しようとしています。我々は、我々の事業を通じて、お互いに助け合っていこうとしています。我々はお互いに知り合いを深めようとしています。そして我々全員が善き友人になろうとしているのです。

2008 年 6 月 28 日